

筋

六年

回数 12
筆順
オン
キン
ツン
すじ

成り立ち



「力」と「月」とを組み合わせて、「力を出す時に使う肉」である「すじ肉」を表した「肋」と、「すじ」の発達した「竹」とを組み合わせて作った字です。

「すじの発達した竹とすじ肉」とで「すじ」という意味を表したものです。

「すじ肉」の意味にも使います。例筋肉、筋骨、腹筋。

「すじ」の意味にも使います。例道筋、筋道、血筋、筋金。

また、「すじ状のもの」の意味にも使います。例鉄筋。

使い方

▽ぼくのおじさんは、ボディービルをやっているので筋肉が発達し、筋骨たくましい体をしています。

▽わたしは物事に筋道がたっていないのはきらいです。頭の中も言う事も、整理して筋道を通すのが好きです。人がわけのわからないことを言うと、いらいらしてしまいます。

熟語例

▽筋肉(筋でできた肉。運動するときに、伸びたり縮んだりして、体を動かせるようにする肉です。)

▽筋骨(筋肉と骨格。「筋骨隆々」とした大男)などというふうには、つかいません。「隆々」というのは、筋肉が盛り上がって、たくましいようすをあらわした言葉です。)

▽腹筋(おなかにある筋肉。これを鍛える運動が「腹筋運動」です。)

▽道筋(通って行く道のすじ。「学校までの道筋に、郵便局がある」などというふうには、つかいません。)

▽筋道(物事のすじ。物の道理。「話の筋道が立っていないから、何が何だかわからない」などというふうには、つかいません。)

系

六年

回数 7
筆順
オン
ケイ
ツン

成り立ち



「糸」という字の上に、糸すじの形を表した「一」を加えて作った字です。

「糸に、別の糸を「つなぐ」ことを表した字です。「つながり」という意味を表しています。例系統、家系、直系、傍系、一系。

ケイの音は、「つなぐ」「つながる」という意味の別の字「繫」の音でもあることから分かりますように、その音に「つなぐ」「つながる」という意味があるのです。

使い方

▽わたしの家系は、系図によると、清和源氏のすえなのだそう。系図というものは、知らない人の名前ばかりで、ややこしくて、あまりよくわかりませんが、おじいちゃんも、そう説明してくれました。

熟語例

▽系統(つながり。つながりのあるものを、筋をおって並べたもの。たとえば、血のつながりや、流派のつながり、法則のつながりなど、色々あります。「あの人のお茶は、裏千家の系統だ」とか、「この系統のバスでは、市役所には行けない」などというふうには、つかいません。)

▽家系(家の系統。血統。血のつながり)

▽直系(直接の系統。血筋や流派などが、直接につながっている関係。反対の言葉は「傍系」です。「彼は川端康成の直系の弟子だ」などというふうには、つかいません。)

▽傍系(直系から分かれた、枝葉の系統)

▽一系(同じ一つの系統。同じ一つの血筋)

▽系図(家系を書きしるした図。先祖からの代々の系統を図に表したもの)